

リスクアセスメント ／性加害者治療プログラム

聖マリアンナ医科大学 神経精神科学教室
安藤久美子

1

リスクアセスメントって？

難しそう・・・

何をしたいのかわからない

そもそも本当に当たるのか



2

適切なアセスメントを行うには・・・

① その人のことをよく知る

3

専門家による
丁寧な「診立て」のための道具

リスク・アセスメント・ツール



過去の「臨床研究や研究論文」や
専門家の実践から、理論的に導き出され、
系統だった視点にそって、丁寧に情報
(リスク要因になりうる要因)を集める

構造化された専門的判断
(SPJ: structured professional Judgement)

4

構造化された専門的判断(SPJ)の特徴

- 過去の「臨床研究や研究論文」や専門家の実践から導き出された変数からなる。
- すべての対象者が、一連の要因について検討されるが、そのなかにはリスクの高いものも低いものもあり、評価者のそれまでの感覚(評価)を覆すかもしれない。

構造化された専門的判断(SPJ)の手順

- 何のリスクについて評価するのかを決める。
- 個々のケースごとにリスク要因を特定する。
- リスク要因がどのように影響し、いまの問題のリスクが高まるのかをシナリオとして整理する。
- 変化可能な動的なリスクファクターや、重要なシナリオをもとに治療やマネージメントプランを立案していく。

1. リスク要因の収集と存在の確認

- リスク要因を多面的に収集する
- リスク要因の“存在”の評価をする
 - 2 Y 確実にある
 - 1 P おそらくある、ありそうだが不確実
 - 0 N ない
 - 情報が無い/判断不能omit

2. ターゲットとするリスクの特定

- 誰を
 - いつ
 - 時期
 - 切迫度
- 何を
 - 暴力/性暴力
 - 自傷、自殺
 - 失踪
 - 被害 など

3. リスク要因の影響・重要性

- リスク要因がどのような影響を及ぼすのか。
- 将来のリスクマネジメント戦略に関する重要性をみる
 - 過去の暴力に関係していたか?
 - 将来の暴力に影響しそうか?
 - 非暴力的な問題解決を阻害しそうか?
 - そのリスクを下げるにあたって重要、決定的か?

4. リスク・マネジメントプラン

※ RNR原則

	内容	臨床では・・・
Risk リスク原則	提供する治療・支援(サービス)を本人のリスクの程度に合わせる	扱いやすいケースに手をかけ、難しいケースは避けやすい/人任せ
Need ニーズ原則	犯罪の原因となるような要因(ニーズ)を明らかにし、そのニーズに治療の焦点をあてる	一般的なプログラム、既存のプログラム、治療者の得意なプログラム、直近の問題行動への介入に目を向けがち
Responsivity レスポンスヴィティ原則	本人にあった方法を用い、本人の動機、能力、ストレスに合わせることで、介入や治療の効果(獲得力)をできるだけ大きくする	なかテラーメイドの支援ができない

リスク・マネジメント

リスク・アセスメントに基づいた
具体的な想定・シナリオにそって、
有効な戦略を立てる

リスク・マネジメントのポイント

① **ターゲットにするリスクを特定**

いつ、誰に、何が、どのように起こるリスクなのか

② **RNR原則**
にそった計画と実施

Risk-Need-Responsivity

③ **再アセスメント**
を行う

当初の計画をたてたときは状態が変わっている

適切なアセスメントには・・・

- ① その人のことをよく知る
- ② 障害特性を理解する

- ・知的レベルはどうか.
- ・発達障害のどんな特性があるか.
- ・二次障害の有無 など

障害特性がどのように 司法に関わってくるのかを考える・・・

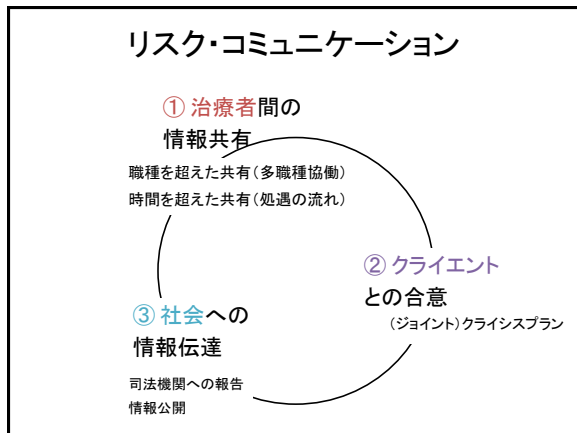
@PIP31-ASD version.

Assessment Tool for
Preventive Intervention for
Problem Behaviors 33items
-ASD version

@pip33の項目

<p>反社会性</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体的暴力 身体的暴力の初回の年齢 非身体的攻撃・破壊的行為 補導歴/逮捕・勾留歴 施設収容歴 違法薬物の使用 	<p>精神疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 自前関連行動 精神病症状 併存する主要な精神疾患 障害特性の理解(受容)度 治療へのアドヒアランス、コンプライアンス/ 復帰を求める姿勢
<p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> 不適切な養育 未成年期の養育者の変更 両親・養育者の犯罪歴や反社会的傾向 	<p>個人特性</p> <ul style="list-style-type: none"> 権威への反抗的態度/反社会的態度 かんしゃく・怒りのコントロール不全 共感性の低さ
<p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校・職場等での不適応 学業成績不備 いじめの被害 	<p>行動特性 ADHD</p> <ul style="list-style-type: none"> 多動性/衝動性の高さ 不注意
<p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害経歴 過去の監督・保護/介入の失敗 対人・社会的サポート 経済状況 	<p>行動特性 ADD</p> <ul style="list-style-type: none"> ルール/規則の理解不足や誤解しやすさ 思考の柔軟性の欠如 日常生活上のこだわり/儀式的行動 相互的対人交流の困難さ 感覚過敏 感覚刺激による不安定さ/パニック発作頻度の高さ

「診立て」の共有
=リスク・コミュニケーション

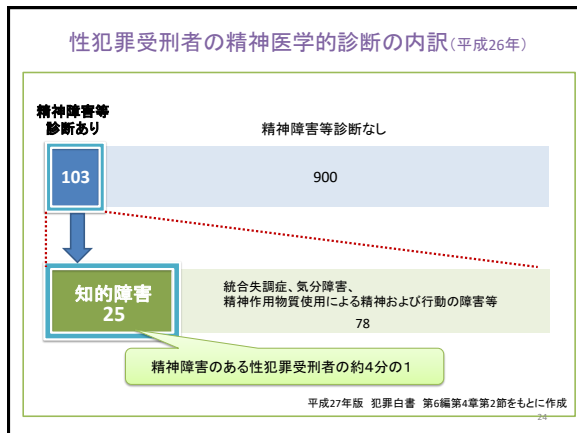
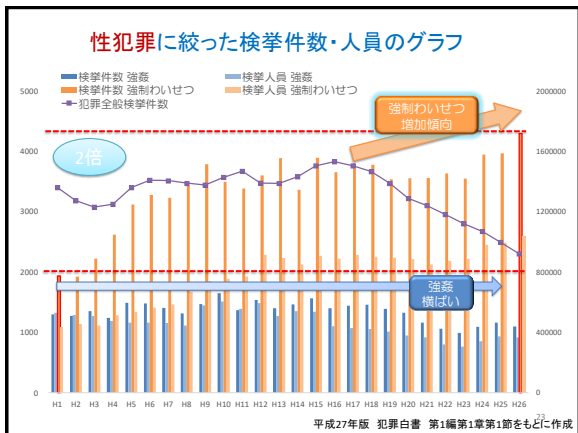


リスク・アセスメント
リスク・マネジメント
リスク・コミュニケーション

広範に集められ整理された情報に基づく根拠のある見立てをし、それをもとにケースごとにリスクの低減に役立つ実現可能な計画をたて、それを本人を含むチームで共有し、実践すること

地域で実施可能な知的障害向けの
性犯罪再犯防止プログラム
(仮称: 聖マリアンナ医大式 SOTRAM)
の開発と普及

22

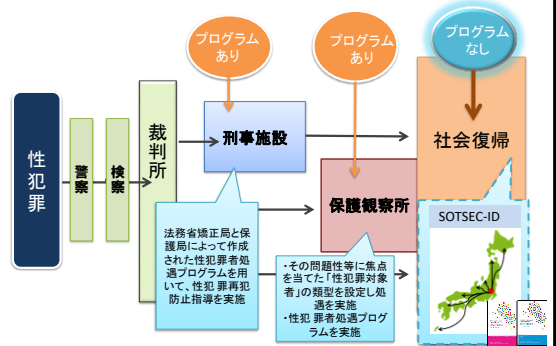


なぜ必要か

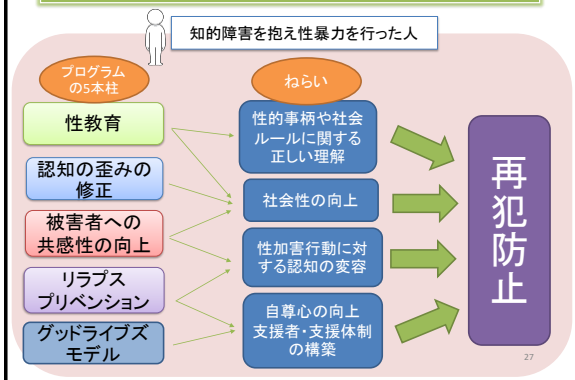
- 性犯罪者向けの治療プログラムはいくつか報告されているが、知的障害や発達障害を併存しているケースにも利用可能なプログラムはあまり知られていない。
- 犯罪と障害に関する包括的な知識を持つ支援者には限りがあり、適切かつ十分な治療や支援を受けられない状況にある。
- 海外においては、性犯罪者に関する法律があり、社会的関心も高く、治療プログラムの開発が進んでいる。
- そこで、英国のSex Offender Treatment Services Collaborative in Intellectual Disabilities (SOTSEC-ID) (Heaton & Murphy, 2013) を参考に、わが国でも実行可能な性犯罪のリスクのある知的障害向けの再犯防止プログラムを開発した。

25

性犯罪加害者への犯罪防止の取り組み



SOTSEC-IDの構造



27

SOTSEC-ID: NCNP版のプログラム

性教育	認知の歪みの修正	リラプスプリベンション
<p>第1回 プログラムを受け取るみなさんへ 自己紹介 プログラムに参加する理由 ルール決める</p> <p>第2回 心とからだの成長と責任 性行為と妊娠、性感染症 からだの聲音の名前やからだの中心の変化 子どもと大人からからだの扱いの違い</p> <p>第3回 関係性のいろいろ—社会的関係の理解— 家族や友人などの様々な人間関係 性的関係を築いていない人間関係 関係を築くこと、人に合わせることに際する社会的なルール</p> <p>第4回 同意・強制、性的関係に関する社会的ルール 関係を築くこと、人に合わせることに際する社会的なルール</p>	<p>第5回 考えたのクセと認知の歪み 自分らしいことを認められない理由(歪みと歪み中心)</p> <p>第6回 認知の歪みと自分の考え方の違い 性犯罪に関連した自分の考え方の違い</p> <p>第7回 行動のABC 行動:性犯罪の思い込み 思考:性犯罪の思い込み</p> <p>第8回 思考・感情・行動モデル 思考:性犯罪の思い込み 感情:性犯罪の思い込み 行動:性犯罪の思い込み</p>	<p>第9回 再犯防止 再犯防止の理由 再犯防止の目標 再犯防止の計画 再犯防止の評価</p> <p>第10回 再犯防止 再犯防止の理由 再犯防止の目標 再犯防止の計画 再犯防止の評価</p>

1回2時間 全15回

SOTSEC-ID: NCNP版の紹介

第4回 脱衣・接触、性的関係に関する社会的ルール から抜粋

服を脱いでよい場面、脱いでいけない場面について考える

触ってもよい相手/触ってもよい場面

性行為をしてはいけない相手、場面について考える

服を脱いでよい場面、脱いでいけない場面について考える

触ってもよい相手/触ってもよい場面

性行為をしてはいけない相手、場面について考える

29

まとめと展望

—SOTSEC-IDを用いた犯罪防止の取り組み—

性犯罪の専門家だけでなく、地域の精神保健に携わるスタッフが実践可能なプログラムを開発し、性犯罪者の治療に対する積極的な取り組みを全国に発信



30